

目 次

はしがき

序 章 本書の目的と構成	1
第1節 本書の目的と検討手法	1
第2節 本書の意義と学術的背景	2
第3節 本書における用語の定義	6
1 ひとり親家庭 (6)	
2 母子家庭・父子家庭 (8)	
3 福祉法政策 (9)	
第4節 本書の仮説と構成	10
1 本書の仮説 (10)	
2 本書の仮説と構成の関係 (11)	
3 各章の構成 (12)	
第1章 日本におけるひとり親家庭研究の動向	18
第1節 本章の目的と分析手法	18
第2節 研究領域からみる、1980年代以降のひとり親家庭をめぐる研究動向	19
1 ひとり親家庭の貧困・就労をめぐる研究動向 (20)	
2 児童扶養手当と養育費をめぐる研究動向 (22)	
3 生活実態・健康・住居問題をめぐる研究動向 (23)	
4 社会資源や具体的支援のあり方、ソーシャルアクションをめぐる研究動向 (24)	
5 父子世帯をめぐる研究動向 (26)	
第3節 ひとり親家庭施策のあり方をめぐる研究動向	28
第4節 小 括	31
第2章 ひとり親家庭の“把握”と支援施策の動向	33
第1節 本章の目的	33
第2節 ひとり親家庭数をめぐる“把握”	33
1 統計調査からみる母子世帯・父子世帯数の把握 (33)	
2 各統計調査の特徴 (35)	
3 国勢調査にみる母子世帯・父子世帯数 (36)	
4 統計調査での推計数と自治体における数の“把握”のズレ (36)	
第3節 ひとり親家庭の支援施策の変遷	37

- 第4節 ひとり親家庭の支援施策の概要…… 38
- 1 子育て・生活支援策 (38)
 - 2 就業支援策 (41)
 - 3 経済的支援策 (51)
- 第5節 自治体での母子自立支援施策の実施状況…… 54
- 第6節 小 括…… 58

第3章 母子及び寡婦福祉法成立までの関連法制定過程…… 59

- 第1節 本章の目的と問題意識…… 59
- 第2節 戦前における母子福祉関連法の経緯…… 61
- 1 「救護法」の制定 (61)
 - 2 「母子扶助法(案)」の上程 (62)
 - 3 「母子保護法」制定 (63)
 - 4 「軍事扶助法」の制定 (64)
- 第3節 戦後から母子福祉法の成立までの経過…… 65
- 1 「母子福祉対策要綱」の作成 (65)
 - 2 「母子福祉資金の貸付等に関する法律」の制定 (66)
- 第4節 母子福祉法の制定過程…… 68
- 1 制定の背景 (68)
 - 2 1964年提出法案以前における国会議論 (69)
 - 3 1964年提出法案における国会議論 (70)
 - 4 1964年成立当時の母子福祉法の内容 (74)
- 第5節 母子福祉法制定の際の論点…… 78
- 1 母子福祉理念の理解 (78)
 - 2 母子福祉専門職への理解 (79)
- 第6節 母子及び寡婦福祉法の誕生…… 82
- 1 背景 (82)
 - 2 関係団体・自民党小委員会での議論：単独立法か、母子福祉法改正か (83)
 - 3 国会での議論 (86)
 - 4 1981年当時の母子及び寡婦福祉法の内容 (88)
- 第7節 小 括…… 90

第4章 母子家庭の母及び父子家庭の父の就業の支援に関する特別措置法成立までの関連法制定過程…… 92

- 第1節 本章の目的と問題意識…… 92
- 第2節 2002年母子及び寡婦福祉法改正以前の就労支援の立法動向…… 94
- 1 母子福祉資金を中心とした就労支援 (94)
 - 2 母子及び寡婦福祉法成立当初における「就労」の位置づけ (95)
 - 3 母子家庭の母等である勤労婦人の雇用の促進に関する特別措置法案 (96)

第3節	2002年の母子及び寡婦福祉法改正における「自立」	102
	1 2002年の母子及び寡婦福祉法の改正経過	(102)
	2 本改正法の意義と「自立」の定義	(104)
第4節	2002年の母子及び寡婦福祉法改正における「就労支援」	106
	1 衆議院での議論	(106)
	2 参議院での議論	(112)
第5節	2003年の母子就業特措法の立法経緯	114
	1 法律案等審査経過	(114)
	2 法律の概要	(114)
第6節	母子就業特措法失効以降、2012年母子父子就業特措法 までの経緯	115
	1 就業支援の「効果」	(115)
	2 母子父子就業特措法の国会での立法経緯	(117)
第7節	小 括	119
第5章	法における家族の眼差しと、ひとり親家庭の 視座	124
第1節	本章の目的と問題意識	124
第2節	法における家族像の把握	126
	1 「家族の憲法化」と「家族の脱公序化、ないし個人化・私化」	(126)
	2 憲法第24条の理解、および法にみる家族モデル	(128)
第3節	1964年の母子福祉法成立過程における「家族モデル」	132
	1 母子福祉法に関する国会議論	(132)
	2 法が想定する家族モデルへのあてはめ	(134)
第4節	1981年の母子及び寡婦福祉法成立過程における「家族モデル」	135
	1 母子福祉法以降から母子及び寡婦福祉法制定までの関連法の動向	(135)
	2 1981年の母子及び寡婦福祉法に関する国会議論	(135)
	3 法が想定する家族モデルへのあてはめ	(138)
第5節	2002年母子及び寡婦福祉法改正過程における「家族モデル」	140
	1 母子及び寡婦福祉法以降の関連法の動向	(140)
	2 2002年母子及び寡婦福祉法改正に関する国会議論	(140)
	3 法が想定する家族モデルへのあてはめ	(144)
第6節	小 括	145
	1 検証結果	(145)
	2 新たな親密圏モデルに立脚したひとり親家庭施策	(146)

第6章 「福祉の権利化」の視点からみたひとり親家庭の福祉法政策……………148

- 第1節 本章の目的と問題意識……………148
- 第2節 「福祉の権利化」とは何か……………150
 - 1 「福祉権」をめぐる動向（150） 2 「福祉の権利化」をめぐる論点（151）
- 第3節 児童扶養手当にみる福祉の権利化とソフト・ローの要素との調整……………153
 - 1 児童扶養手当法における権利の「制度化」の度合い（153） 2 児童扶養手当法にみる権利化の促進/遮断の機能を有するソフト・ロー的な調整要素（155）
- 第4節 福祉/就労支援サービス給付におけるハード・ローの不備……………161
 - 1 ひとり親家庭の福祉/就労支援における支援の不十分性（161） 2 福祉/就労支援サービス給付における権利の「制度化」の度合い（162） 3 福祉/就労支援サービス給付におけるハード・ローの不備による具体的課題（165）
- 第5節 小 括……………168

第7章 ひとり親家庭の福祉法政策における今後の方向性……………170

- 第1節 本章の目的と問題意識……………170
- 第2節 社会保障法学における「自立」像……………172
 - 1 「生活主体」としての法的人間像（172） 2 「自律的個人」としての法的人間像（174） 3 社会福祉サービス法における人間像（178） 4 ひとり親家庭における法的人間像への示唆（180）
- 第3節 ケアの倫理からみる人間像……………182
 - 1 ギリガンによる「ケアの倫理」の発見（182） 2 キテイによる「ケアの正義論」（186）
- 第4節 ひとり親家庭の福祉法政策における人間像への適用可能性……………193
 - 1 新たななる社会構想としての「ケアの倫理」および「ケアの正義論」（193）
 - 2 ひとり親家庭の福祉法政策における人間像（194） 3 ひとり親家庭の福祉法政策と「公的ドゥーリア」（196）
- 第5節 小 括……………203

終章 本書での結論と今後の課題	204
第1節 第1仮説の検証	204
1 第1仮説の答1の検証 (204)	
2 第1仮説の答2の検証 (205)	
第2節 第2仮説の検証	206
第3節 今後の課題	207
補論 コロナ禍におけるひとり親家庭対策の素描	209
1 補論の目的と背景	209
2 コロナ禍におけるひとり親家庭の現状と対策	209
3 コロナ禍におけるひとり親家庭への対策からみえること	212
参考文献	215